

修士論文要旨

学籍番号 22GH204

第 号

氏名

東洋史 専攻 (コース: 現代共生)

石塚城

論文題目

壬辰戦争 (万曆朝鮮戦争) 中の物資補給に関する研究

本研究は、壬辰戦争 (1592-1598) 期間における明朝と朝鮮半島の軍事戦略に焦点を当て、特に海上輸送の戦略とその効果について詳細に分析した。この時代の戦争は、東アジアにおける軍事的な動向と明朝の軍事戦略に深い影響を与え、現代の軍事史研究において重要な意義を持っている。

研究の中心は、明朝の海上輸送戦略と、その戦略が戦争の経過と結果にどのように影響を与えたかにある。壬辰戦争における明朝の海上輸送戦略は、宋応昌、邢玠、張養蒙などの軍糧官による重要な革新と改善を経て、戦争期間中の食糧供給の問題に対処するための中心的な要素となった。本研究では、これらの軍糧官が取り組んだ海上輸送の拡張と管理強化の措置、およびそれらが軍隊の食糧不足という問題にどのように対処したかについて考察した。

初期の海上輸送は、宋応昌の指導下で行われ、朝鮮の義州への大量食糧輸送を可能にした。しかし、この時期の輸送システムは依然として不完全であり、朝鮮国内での輸送と分配の問題に直面していた。邢玠と張養蒙による後期の改革は、海上輸送の効果を大幅に向上させ、軍隊の食糧不足の問題を緩和した。彼らは軍糧輸送システムを再編し、遼東と山東からの輸送圧力を軽減し、天津の海上輸送拠点を拡張し、朝鮮広梁への直接輸送を実現した。

本研究では、戦争中の食糧供給不足が軍隊の士気や民衆の生活に及ぼした影響についても詳細に分析した。明朝軍の食糧供給問題は、朝鮮民衆に対する負担を増加させ、民衆反乱の原因となることもあった。これらの発見は、戦争期間中の物資輸送と供給の複雑な側面を示し、戦略と戦術の計画における物流と供給の重要性を強調するものである。

さらに、本研究は壬辰戦争における海上輸送の歴史的意義と戦略的価値を詳細に分析し、軍事史の研究におけるさらなる探求の可能性を示唆した。海上輸送の成功と失敗の研究は、軍事戦略の理解を深めるだけでなく、現代の物流と供給チェーン管理にも有益な洞察を提供する。これらの発見は、軍事戦略だけでなく、社会経済的な側面からも歴史を理解する重要性を示している。また、本研究は、戦時の物資輸送とその影響に関するさらなる研究の道を開いた。

本研究は、壬辰戦争時の明朝の軍事戦略と物資輸送の複雑さを明らかにし、これらの戦略がどのように現代の軍事戦略や物流管理に影響を与えるかを理解する上で貴重な示唆を与える。明朝の軍糧官たちの革新的な取り組みは、当時の軍事物資輸送の限界を克服し、戦争の長期化に対処するための重要な戦略となった。戦争における物資輸送の成功と失敗は、戦争の経過と結果に直接的な影響を与え、戦争史研究において重要な役割を果たしている。

最後に、本研究は、歴史的な軍事戦略を理解する上で、壬辰戦争の海上輸送の研究がいかに重要であることを強調している。この研究は、軍事史だけでなく、社会経済的な側面からも歴史を理解する重要性を示している。